

【別紙2】

いじめが発生した場合の対応

(1) いじめのレベルを知る

些細なトラブル、けんか、言い合いが子どもの成長に欠かせない場合もある。偶発、単発、一時的、継続していない場合は、レベル1（深度レベル表参照）に相当する。子どもによっては、自分の行動が相手に精神的な苦痛を与えていることに気づかない場合もある。このような場合は、「〇〇君の△△君に対する、～～という行動は、△△君を傷つけていると思います。先生もそのようにされたらとても嫌だと感じます」という具合に、行動に焦点化して指導する。短く、そして毅然とした語調で、そういう行動をしている子どもにその場で伝えることが必要である。大切なのは、教師の目と心であることが多い。何かおかしい、何か変だと感じたら、そこに目を向ける。そして、そこに隠されている加害者、被害者の力関係、いじめに伴う感情に気づき、適切な働きかけをしなければならない。

いじめがレベル2以上である場合は、初期対応の基本的な流れに沿って、速やかに事実関係の把握、被害者、加害者への面接、チームによる支援策の検討に入る。

いじめの深度レベル

レベル1	1対1の比較的軽度な言葉によるからかいや無視等
レベル2	数名の軽度な言葉によるいじめ、仲間外れ、無視
レベル3	レベル2が継続する。蹴る、叩く、足をかける、物かくし等、精神的苦痛を伴う実害がある
レベル4	長期間の集団無視、強要、ぬれぎぬ、服を脱がせる等重度の実害発生。いじめによる不登校、転校を保護者、本人が検討
レベル5	万引強要・けがを伴う暴力・恐喝・窃盗・PTSDと診断される、自傷行為、死を語る

(2) けんか、からかいと「いじめ」の区別

子ども同士の関わりには、いじめなのか、いたずらや悪ふざけなのか、その識別が難しいものがたくさんあり、教師もその判断に迷うことがある。「いじめ」と「ケンカ、からかい」の決定的な違いは、そこに「対等な力関係があるかどうか」「動機とそれに伴う感情」の2点があげられる。

「ケンカ」は、意思疎通の支障や誤解、互いの利益の衝突によって引き起こされるため、自分の意志や思い、利益が遂げられることによって相手との関係は修復される。関係修復が願望としてありながら、そうはできない現実には苦しみ、葛藤し、時には怒りの感情を引き起こすが、本心は、「仲良くなりたい」「自分の気持ちを分かってほしい」という気持ちが根底にあるので、どれだけかっとなっても、徹底的に相手に打撃を与えることを目的とはしないことが多い。一時的に身体的苦痛を与えたとしても、どちらかが歩み寄れば、関係は修復される。

「からかい」は、仲の良い友だち同士でも見られる。からかいあっている子どもには、あざけているときにはない陽気な感じがある。お互いにからかったりからかわれたりという対等な関係であり、からかわれた子どもが傷つかない原則、心構えをもっている。従って、片方がうっかり相手を傷つけるようなことを言ったり、面と向かって言いにくいことを面白いことのふりをして言おうとしたりして相手が傷ついたことに気づいたら、言った側は、自分の過ちを認め、行いを改めることができる。必要以上にしつこくしたり、過剰に追いつめたりするということも

ない。「和気藹々（あいあい）」と表現されるように、親しい友だちだからこそ優しいからかいの応酬ができる。

これに対して「いじめ」は相手が「負け」を認めているにも関わらず、執拗に特定の子を継続的にあざけり(からかい)、攻撃を続ける。「いじめ」は相手に精神的な苦痛を与えることを目的として行うため、相手が苦痛に感じていることに喜びを感じている。ゆえに、この行為は継続し、エスカレーターしていく。この点に関して、意思疎通の支障や利害の不一致から生じるトラブルやけんか、お互いの尊厳が保たれ相手を傷つける意図のない「からかい」と、まったく違う性質のものと言える。

「からかい」とはどのようなものか

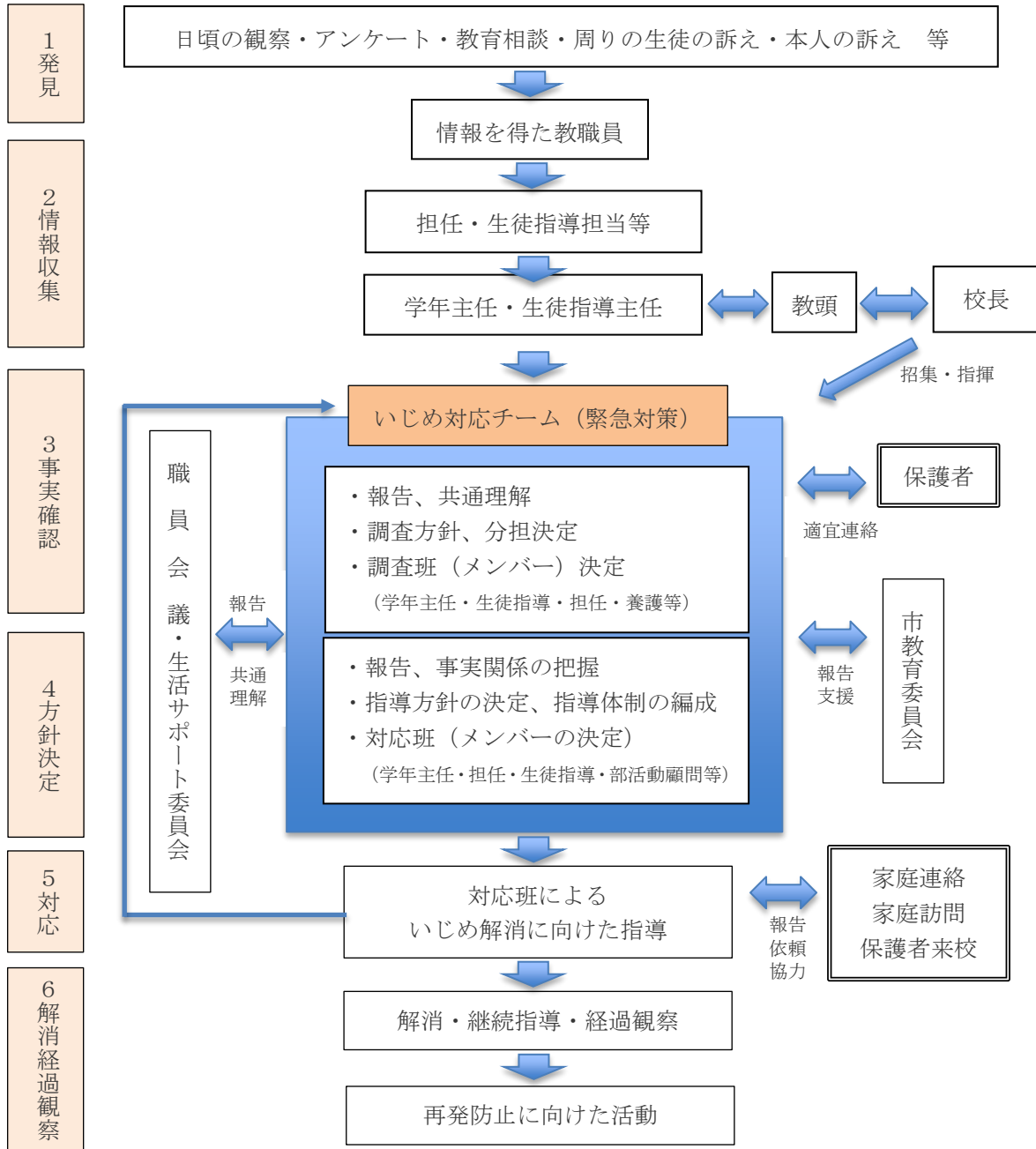
- 1 からかう人と相手が簡単に役割を交換することができる
- 2 相手を傷つける意図はない
- 3 お互いの基本的な尊厳が保たれている
- 4 屈託なく、賢く、優しいやり方でからかう
- 5 一緒に笑うつもりでいる
- 6 罪のない動機で始められる
- 7 からかわれた人が動転したり抗議したりしたら、そこで終わる

「あざけり」とはどのようなものか

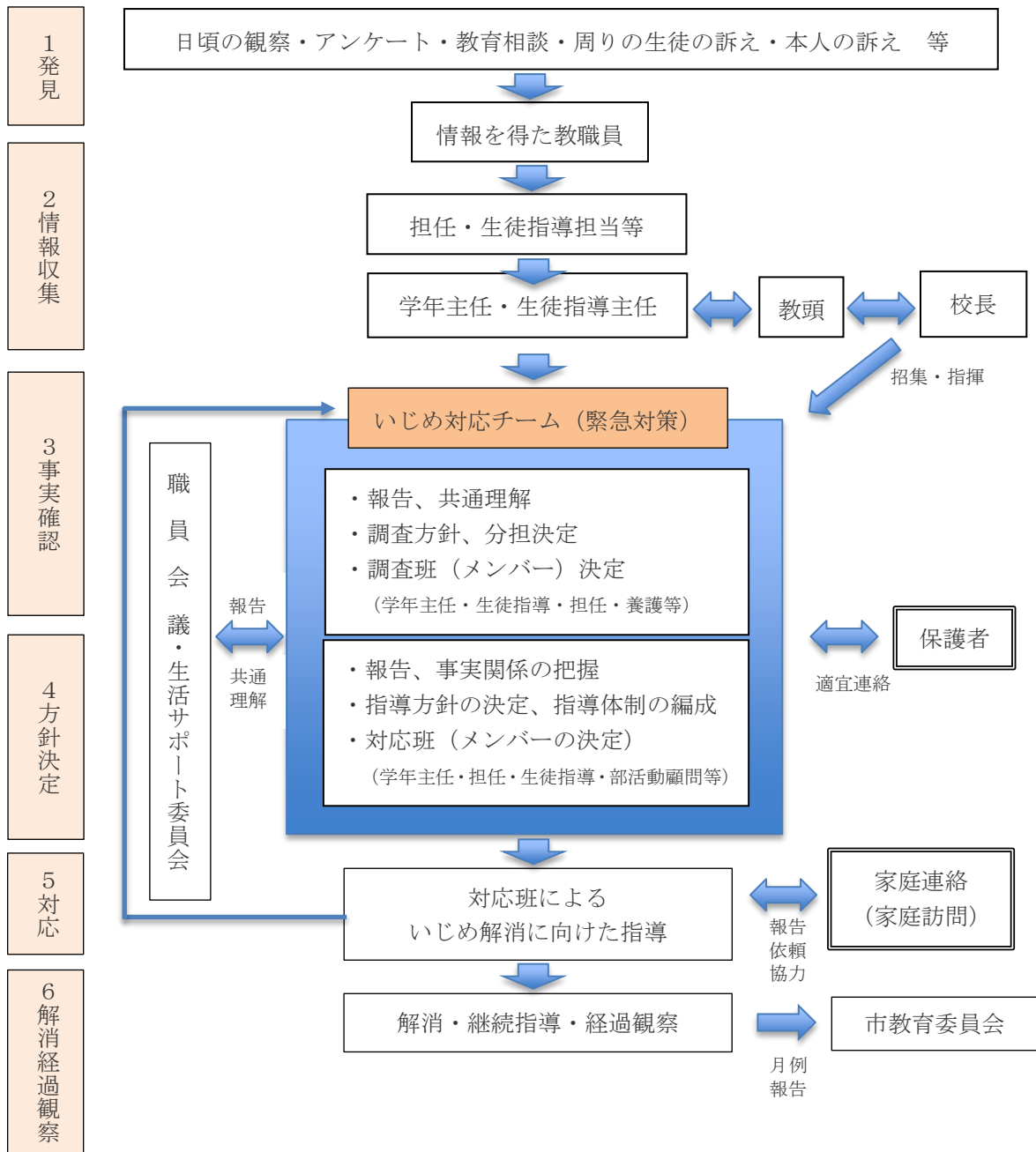
- 1 力関係が対等ではなく、一方的に優位。あざけられるのはいじめられる側と決まっている
- 2 相手を傷つけようという意図がある
- 3 相手を笑っているのであって、相手と一緒に笑うわけではない
- 4 相手の自尊心を損なおうという意図がある
- 5 腕力によるいじめの前触れではないかという恐れを誘発する
- 6 悪意から発している
- 7 いじめられる側が苦しんだり抗議したりすればするほど、続くことになる

【基本的な対応】

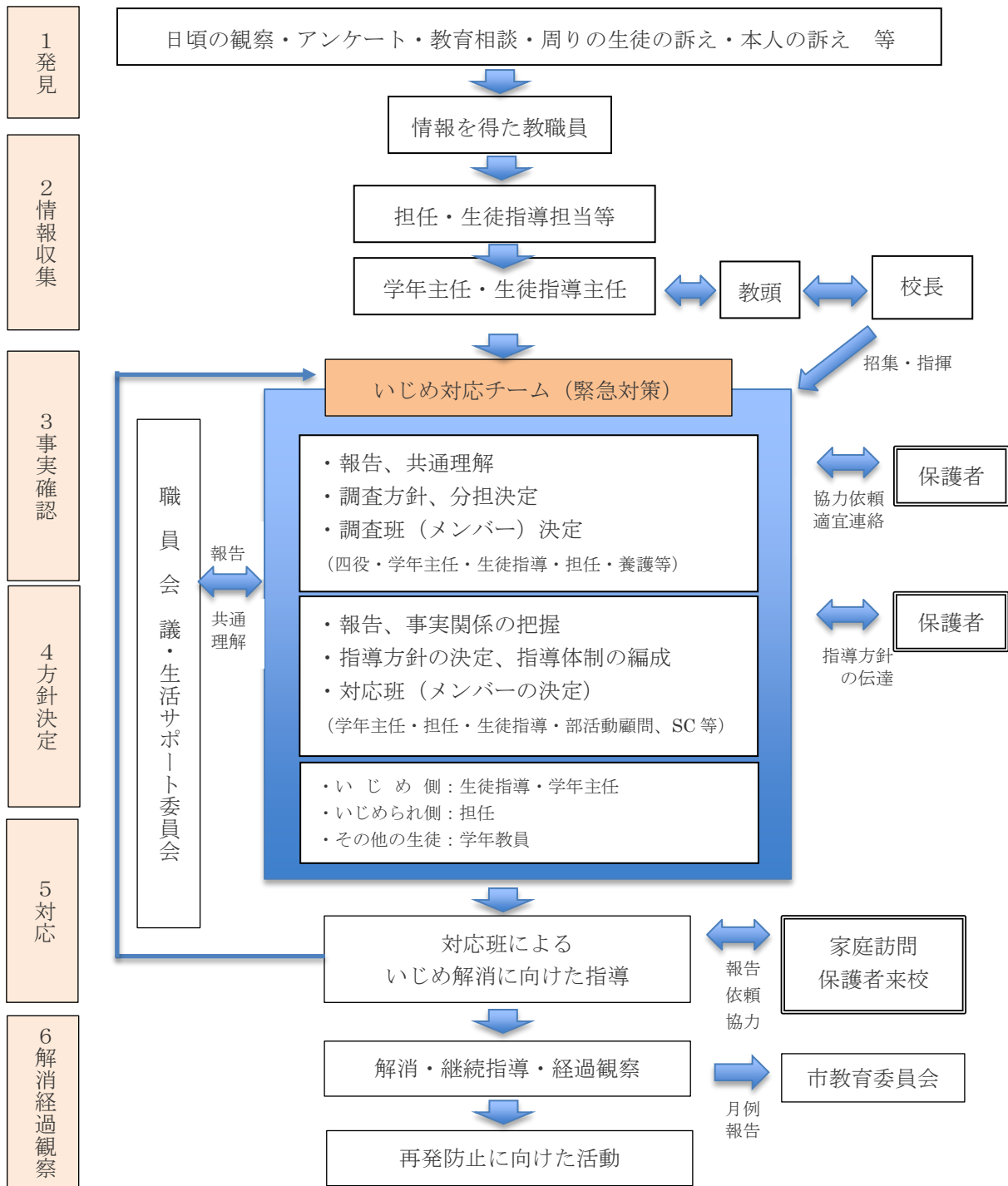
さ 最悪の事態を想定して し 慎重に す 素早く せ 誠意をもって そ 組織を挙げて対応する



【対応1】 レベル1（いたづら・あざけり・ケンカなど）



【対応2】 レベル2・3（家庭訪問・保護者来校を要する）



【対応3】 レベル4・5（重大事態が発生した）

